

# **Changes in Urban Activity and Lifestyles of University Students due to the COVID-19 Pandemic**

COVID-19による大学生の都市活動・生活様式の変化

**Naoki Suzuki Yuto Miyazono**

鈴木 直輝 宮園 侑門

# **CONTENTS**

目次

## **Abstract**

- 1. Distributions of living place in Pandemic**
- 2. Changes in the Percentage of Usage by Means of Transportation**
- 3. Changes in Purpose of Walking**
- 4. Changes in Frequency of Use of Urban Facilities**
- 5. Frequency of use in Pandemic (Park)**
- 6. Multiple Regression Analysis and Partial Regression Coefficient**

**Conclusions**

# Abstract

## 本研究の概要

COVID-19の感染拡大による、緊急事態宣言や外出自粛要請、またそれに伴う大学講義のオンライン化などから、都市活動に変化が生じている。

居住地の近隣の都市空間が重要になると考えられ、ポストCOVID-19の都市活動にも影響を及ぼし得る。本研究は、こうした背景下で行った、大学生・大学院生の行動・生活様式の変化に関するアンケート調査の結果に基づいている。

まず、自宅生・下宿生の区分に着目し、「交通手段の利用と目的」「施設の利用頻度」「新たな都市活動」について分析を行った。

そして、「公園の利用頻度」に着目し、自宅生・下宿生以外の因子との関係性を確認した。

# 1. Distributions of living place in Pandemic

## 自宅生・下宿生の分布

### Living Place

- Living with family
- Living alone

アンケート調査の調査概要及び回答者属性は以下の表の通りである。

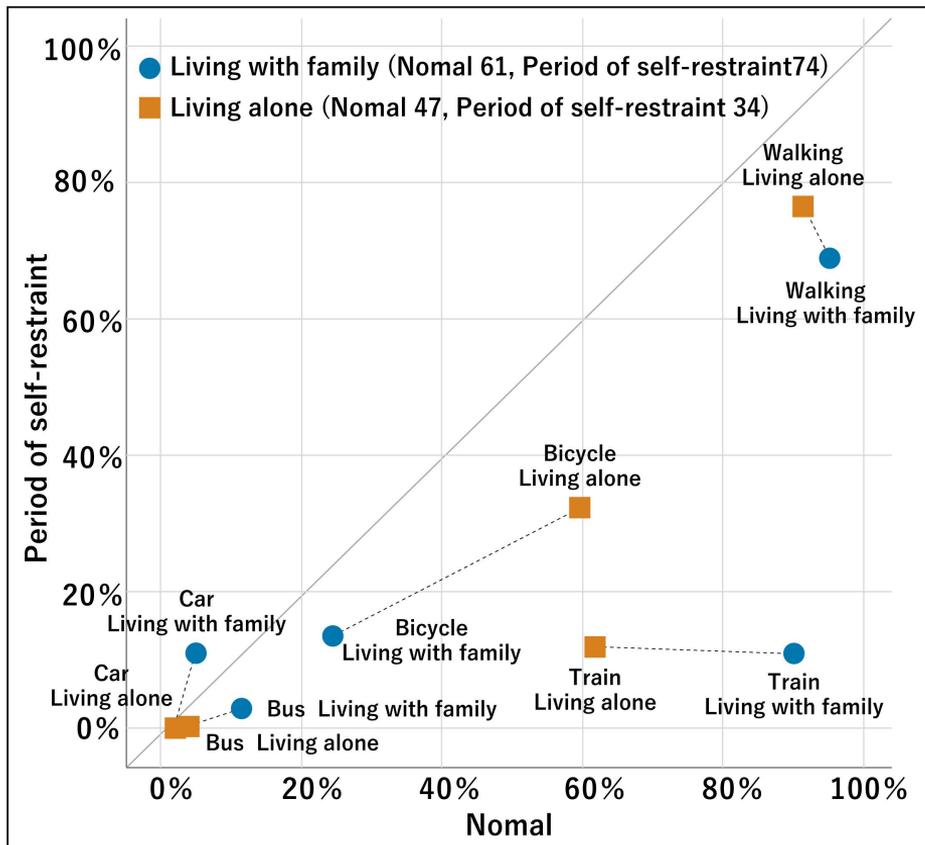
回答者のうち、東京圏における自宅生と下宿生の分布を示している。

自宅生は東京圏に分散している一方で、下宿生は都区部に集中している。

調査実施期間	2020年5月15日～24日
調査対象者	東京大学工学部、同大学院工学系研究科または情報学環・学際情報学府に所属する学生108名
学年	学部2年1,3年13,4年27, 修士1年38,2年23, 博士6
住まい	平常時：自宅生61, 下宿生47 回答時：自宅生74, 下宿生34
住所（回答時）	東京都69, 神奈川県14, 千葉県7, 茨城県3, 兵庫県3, 京都府2, 大阪府2, 他4
主な調査項目	平常時・外出自粛期間中の交通手段別利用時間と目的、施設利用頻度（平日・休日）；外出自粛期間中の新たな訪問場所、新たな行動・生活様式；オンラインショッピング利用

## 2. Changes in the Percentage of Usage by Means of Transportation

### 交通手段別の利用割合の変化



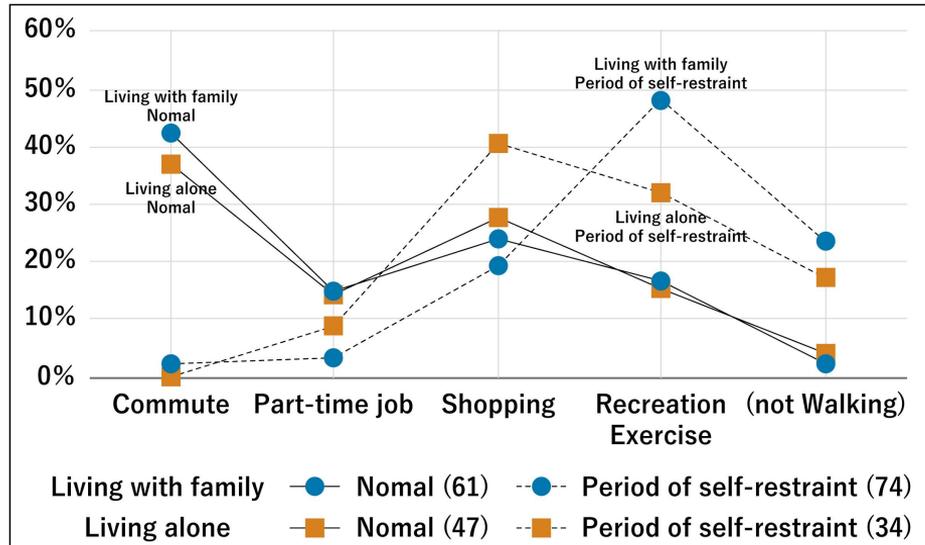
交通手段ごとの平常時と外出自粛期間中の利用割合をプロットしたものである。

自宅生、下宿生ともにほぼ全ての交通手段で利用割合が減少しており、外出自粛期間中の電車の利用割合が激減している。

自宅生の自動車の利用割合は平常時に比べて増加している。

# 3. Changes in Purpose of Walking

## 歩行の主たる目的の変化



自宅生・下宿生ともに「通学」「アルバイト」目的の歩行が減少し、「歩行していない」人が増加している。

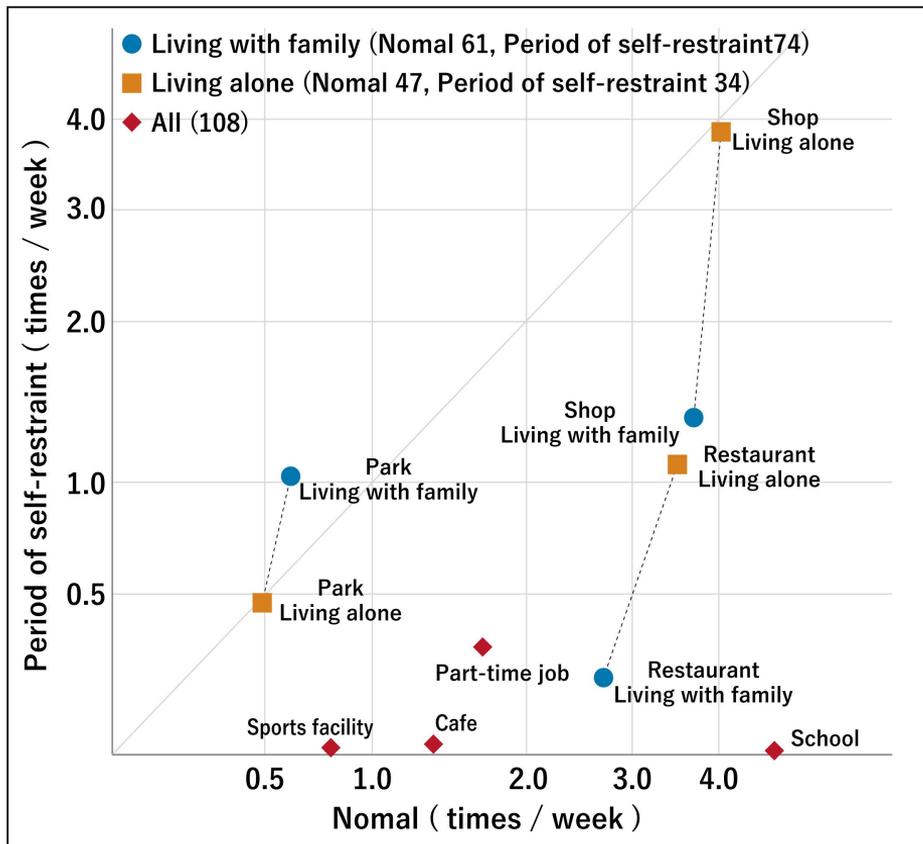
下宿生は「買い物・食事」目的の歩行、「気分転換・運動」目的の歩行が増加している。

自宅生は「気分転換・運動」目的の歩行が3倍に増加している。

こうした要因として、自宅生は自分で買い物をする必要がないことで外出機会が減り運動不足になりやすい可能性や、自宅で家族と過ごす時間が長くなり一人になる時間を求めている可能性等が考えられる。

# 4. Changes in Frequency of Use of Urban Facilities

## 都市施設別の利用頻度の変化



1週間における各都市施設の平常時と外出自粛期間中の利用頻度をプロットしたものである。

「学校」「カフェ」などの営業自粛の影響を受けたものは大きく利用頻度が減少している。

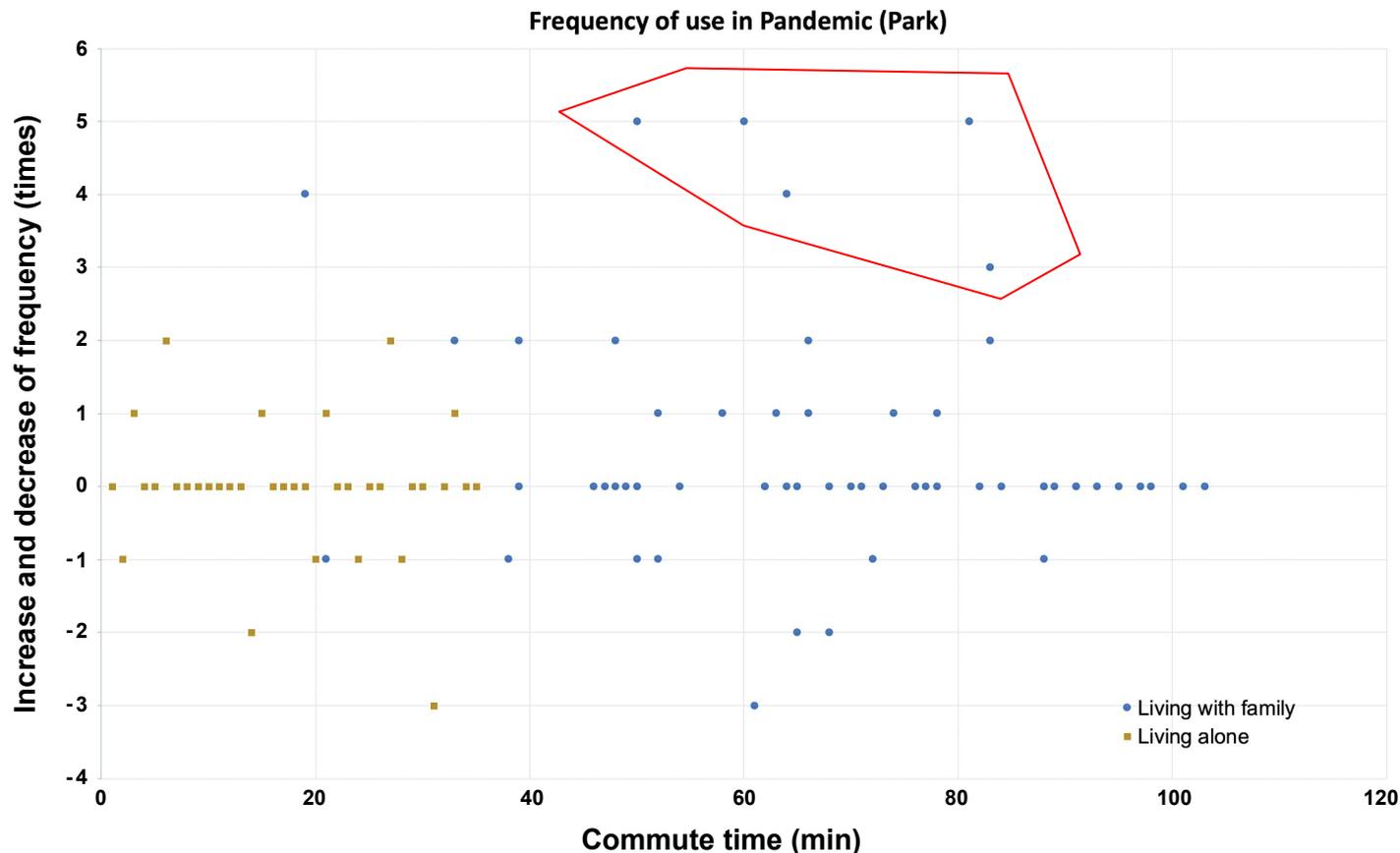
「小売店」「飲食店」「公園」は、自宅生と下宿生の利用頻度に有意差が見られた。

「小売店」「飲食店」は下宿生の外出自粛期間中の利用頻度が比較的大きい。一方で、「公園」は自宅生の外出自粛期間中の利用頻度が平常時に比べ増加している。

以降、公園の利用頻度に着目して分析をする。

# 5. Frequency of use in Pandemic (Park)

外出自粛期間中の公園利用頻度



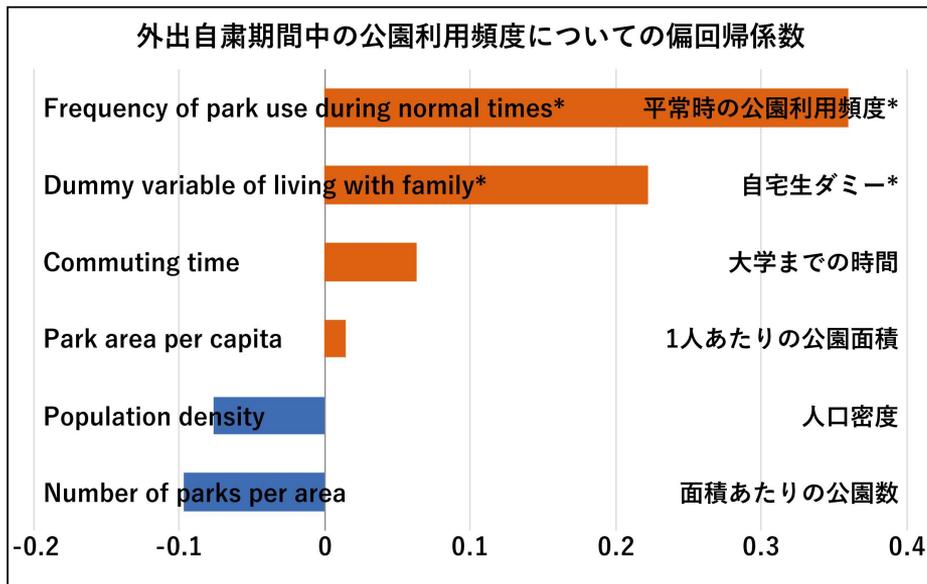
横軸「居住地から大学までの通勤時間」、縦軸「1週間あたりの、平常時に対する外出自粛期間中の公園利用頻度」としてプロットしたものである。

公園利用頻度の増加が通勤時間の長い自宅生に見られたことに着目した。

重回帰分析、偏回帰係数は次ページに掲載する。

# 6. Multiple Regression Analysis and Partial Regression Coefficient

## 外出自粛期間中の公園利用頻度に関する重回帰分析と偏回帰係数



決定係数  $R^2 = 0.204$

外出自粛期間中の公園利用頻度に関する偏回帰係数を示している。

COVID-19下での公園利用頻度の要因について様々な推測がなされたが、重回帰分析の結果より「平常時の公園利用頻度」「自宅生ダミー」との関連性のみが認められた。

「平常時の公園利用頻度」「自宅生ダミー」とやや正の相関が見られた。

# Conclusions

## 本研究の結論

- 自宅生・下宿生とも、営業自粛対象の大学等施設の利用頻度や、それらを目的とした移動は大幅に減少していた。
- 自宅生は気分転換・運動を目的とした歩行が平常時より約 3倍増加し、公園の利用が平常時より約 2枚増加している。自宅生の気分転換・運動目的の歩行や公園の重要性が高まった。
- 下宿生は買い物や気分転換・運動を目的とした歩行が増加し、外出自粛期間中において自宅生より小売店や飲食店の利用頻度が高い傾向にある。下宿生の小売店・飲食店の利用が明らかになった。
- 外出自粛期間中の公園利用頻度の要因として様々なものが想定されたが、平常時の公園利用頻度と自宅生であることの2つが関係性を持つことが分かった。